

令和2年度 学校評価シート

青梅市立新町中学校

<学校経営計画の重点>

- 1 学力の向上 2 思いやり、規範意識、社会貢献の態度の育成 3 健康・安全な学校 4 地域・保護者との連携

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校運営協議会委員からのコメント	評価
学力の向上	○主体的に学び、学習する生徒の育成 ○生涯学習の基礎を育成	・基礎的・基本的な知識・技能の定着と学んだことを活用する力を育成する。 ・「ほめる・はげます・考えさせる」に重点を置き、学習への意欲を高め生涯学習の基礎をつくる。	・良好な学習環境を維持していくため、チャイム着席・発言・発表、聞く態度を改善していく。青梅市のステップアップ、スタディアシストの活用を図る。	3	・授業態度は良好であったが、一部、集中できていない生徒もいた。 ・補習への出席は消極的であった。	・タブレット端末によるドリルを朝学習と家庭学習に取り入れる。また、放課後の補習にも活用する。	・チャイム着席や授業態度は比較的できています。(4名) ・市の学力向上施策の活用もできている。	3.4
			・言語活動を通して学んだことを活用する授業を実践して学習意欲を高めていく。(体験、学びあい、発表等の機会を増やしていく。)	3	・言語活動、体験、学び合いについては、実施が難しかった。 ・発表についても、限られた形態になった。	・言語活動、発表等について、ICT機器等の活用を含め、工夫して指導を行っていく。	・発表や体験などの活動は、子供の成長に大切であり、インプットの授業だけでなく、アウトプットのできる子供を育成してほしい。 ・考えさせることは大切である。	3.75
健全育成	○思いやり、規範意識、主体的に社会に貢献する力の育成 ○健康で安心・安全な学校生活の実現(いじめ、不登校の未然防止)	・学校行事・特別活動を通じた人間関係づくりと社会に貢献する力を育成する。 ・健康教育、安全教育の充実を図り、危機回避能力の育成を行う。	・学校行事での人間関係づくりと校内、校外のボランティア活動等による社会貢献の態度を育成する。(生徒の活躍の場を積極的に設定する。)	3	・校内の活動はできたが、地域での活動自体が自粛されていたため、活動の機会を設定できなかった。	・校外の活動が例年どおり実施できない可能性があるため、校内の活動を増やす工夫を行う。	・ボランティア活動は、学校の伝統であり、社会貢献の精神が身に付く経験であり、継続して実施してほしい。(4名) ・実施が難しい面があるが、意義のある活動なので工夫して実施してほしい。(2名)	3.8
			・日頃から生徒理解に務め、いじめ・不登校等への早期対応を行なう。また、大学と連携した不登校生徒の居場所づくりを推進していく。	3	・大学の休校等により、支援員の派遣はできなかったが、例年どおりに居場所づくりの体制はできた。	・例年どおりの体制をつくる。 ・ICTを活用した支援体制を実施していく。	・新型コロナウイルスに関するいじめに注意が必要である。 ・いじめ・不登校は早期対応が大切である。 ・居場所づくりの活動は継続してほしい。	3.6
			・健康、交通安全等の情報発信、情報モラル教育等のセーフティ教室の実施、不審者情報等の発信を行い意識を高めていく。	4	・外部機関を利用したセーフティ教室はできなかったが、リーフレット等を活用して校内で実施した。	・外部機関が利用できない場合の指導について事前に考えておく。	・コロナに関する健康・安全についてこれからも指導をお願いしたい。(3名) ・中学生は移動範囲が広がるため、安全指導はとても大切である(2名)	3.6
その他	○学校生活の公開を進め、地域・保護者と連携した教育の推進 ○持続可能な学校の指導・運営体制構築のため、働き方改革を推進	・教育活動の積極的な公開と地域・保護者が教育活動にかかわれる体制づくりを行なう。 ・生徒のスポーツニーズに対応した適正な部活動の実施、効率的な教育活動、勤務時間に対する意識改革を進めていく。	・学校だより、画像付きメール配信、学校公開、道徳授業地区公開講座等による公開をすすめ、地域・保護者の学校教育に対する理解を深め学校生活向上への協力を求める。	4	・新型コロナウイルスに関係する発信が中心で、生徒の様子を伝える機会が少なかった。 ・感染防止の協力を得ることができた。	・行事の中止等で情報発信の数は減ったが、家庭の協力が得られるような情報発信を継続していく。	・学校からのメール配信やその他のプリント類から学校の様子はよく分かる。(4名) ・今年度は、授業参観(学校公開)が一度もなく残念だった。(2名)	3.6
			・生徒数の減少に対応した部活動の整理、生徒のニーズに対応した部活動の在り方の検討を行なう。時間外の教育活動及び教育効果の少ない活動の整理・統合を進めていく。	3	・今年度は部活動を実施できた期間が短かった。 ・生徒数の減少に伴い部活動を精選してきたが、教員の異動により計画的な整理・統合は難しい状況にある。	・部活動に対する期待と学校の指導体制を考えながら、バランスよく部活動を実施していく。	・部活動は、健全育成に重要なものである。(2名) ・部活動と教員の働き方改革をバランスよく、実施してほしい。(2名) ・コロナにより部活動ができなくなった影響をよく見ることも大切である。	3.25

※ 評価は、左側が学校で行った内部評価で、右側が学校運営連絡協議会委員(5名)の方から寄せられた評価です。
評価は4段階評価です。(4 よくてきている 3 できている 2 改善が必要である 1 大いに改善が必要である)